

I K U S E I

わくせいの

2024 62



公益社団法人 競走馬育成協会

CONTENTS

■巻頭言	
「ごあいさつ」	
(JRA 馬事部長 松田芳和)	①
○競走馬育成協会役職員人事	②
■特 集	
生産育成牧場就業者参入促進事業 (BOKUJOB)	
「BOKUJOB2024 メインフェア・関西フェア」.....	③
■行 事	
① 令和5年度・6年度「育成等に関する懇談会」を開催	⑧
② 2024年度「定時総会」を開催	⑪
■事 業	
① 育成技術講習会	⑫
② 育成技術表彰事業	⑬
③ 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業	⑬
④ 競馬関連機材等有効活用事業	⑰
⑤ 軽種馬経営高度化指導研修 (人材養成支援)	⑱
⑥ 軽種馬生産者等経営安定化 (飼料等高騰対策)	⑳
■お知らせ	
○TAW からののお知らせ	㉑
○JRA からののお知らせ	㉒
○BTC からののお知らせ	㉓
○賛助会員のご紹介	㉔



題字 元会長 小沢一郎
表紙写真 内藤律子

ごあいさつ 競馬産業における人材不足への取組み



JRA 馬事部長
松田 芳和

JRAの松田と申します。昨年9月に馬事部生産育成対策室長から馬事部長に就任しました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、JRA馬事部ではその名の通り、育成馬、現役競走馬、引退馬、乗馬など馬にかかわる業務に取り組んでおり、その内容は、生産育成、競走馬のアンチドーピング、防疫、馬事振興など多岐にわたっております。今回は、その中でも特に重要な課題である「競馬産業における人材不足への取組み」に関してご紹介したいと思います。

日高地区をはじめとした生産地においては、20年ほど前から「後継者不足」が叫ばれており、未だ解決に至っておりません。現在ではさらに深刻な「若年層の就労者不足」が生産牧場のみならず育成牧場も含めた共通の喫緊の課題となっています。生産・育成牧場で就労する若者の減少がそのまま継続すれば、競馬産業の発展はもとより、これまでに築き上げてきた「馬を取扱う技術」、「生産・調教技術」などを次世代に継承させていくことが困難となり、先人が試行錯誤した努力が水泡に帰すことになりかねません。JRAとしても、人材不足の問題は早急に取り掛からなければならない重要な課題と考えております。

競馬産業における「人材不足」をあらゆる顕著な現象として、近年、育成牧場においてインドやフィリピンなど主にアジア諸国からの外国人騎乗技術者が増加している点が挙げられます。さらに、地方競馬の認定厩務員に目を移すと、南関東4競馬組合を除くすべての競馬組合において外国人が就労しており、特にホッカイドウ競馬では約3割が外国人となっています。札幌競馬場で開催される交流競走にはホッカイドウ競馬所属馬が多数出走しており、数年前より外国人（主にインド人）の認定厩務員が臨場し、中央競馬の開催においても外国人厩務員の臨場が現

実となったところ です。

それでは、人材の確保とその養成に関して、これまで行われてきた活動について紹介いたします。牧場における優秀な人材確保の一助として「牧場就業促進事業“BOKUJOB”」の活動が挙げられます。牧場関係者の要望を受けて2008年に発足したものであり、貴協会をはじめ、日本軽種馬協会（JBBA）、日本競走馬協会、軽種馬育成調教センター（BTC）およびJRAの5団体で事務局を構成し、各牧場の協力を得ながら就業促進を図ることを目的に主に4つの活動を行っています。それは、①専用ホームページによる求人牧場情報の提供、②競馬場における大規模な就職フェアの開催、③日高地区やトレセン周辺牧場への体験ツアーの実施、④競馬場やイベント会場（高校総体馬術競技、日本学校農業クラブ全国大会等）におけるサポートデスク（広報・相談ブース）の出展であります。さらに、近年、Webを活用した就労希望者と牧場等の相談が浸透してきたことに伴い、オンライン会議ソフトを活用したWebフェアの開催も行っています。この活動については、ホームページのみならず、XやInstagram等の若年層に馴染みやすいSNSを活用した告知も実施しております。牧場への調査結果によれば、BOKUJOBを經由して牧場に就労した者の数は、2011年から2023年の13年間で延べ445名に上りますが、残念ながら求人数には及んでおりません。

一方、人材養成事業としては、BTCにおける育成調教技術者養成研修、JBBAにおける生産育成技術者研修が実施されています。いずれも研修期間は1年間であり、研修内容は馬取扱実技、馬学講義および騎乗実技が中心、各団体の特性上BTCの研修は騎乗実技、JBBAの研修は馬取扱実技に重点を置いて行われています。これらの研修の受入れに関してBTCは2019年、JBBAは2018年まで応募人数が減少

していましたが、BOKUJOB を活用し応募者の確保に取り組んだことにより近年は増加傾向にあります。特に2019年から次年度の募集に向けて、BTC・JBBA 合同の体験入学会を開催するとともに、ホームページや SNS における両事業の紹介記事の充実を図った効果が大きかったようです。

競馬産業における人材不足の問題は、生産地に限らず全国の育成牧場においても同様であり、牧場従業員のみならず獣医師や装蹄師の不足も懸念されております。今後、国内の人口減少・高齢化が顕著に進むなか、馬産業全体で益々人材不足の深刻化が予測されることから、JRA では総合企画部が中心となり、競走部や馬事部など関連部署によるプロジェクトチームが昨秋に設置され、問題解決へ向けた対応

を開始したところです。具体的には、JRA による馬に関する職業紹介サイト“UMAJOB”を開設し、生産・育成牧場スタッフ、厩務員、騎手、獣医師、装蹄師などの仕事内容をわかりやすく紹介するとともに、就職するための方法など様々な情報提供を行っております。また、先に述べた BTC や JBBA 研修の定員増を検討しており、そのための応募者数増加に向けた研修費用の約 8 割減を実施しました。そのほか、JRA 東京競馬場乗馬センターにおいて「馬の世界で働きたい人のための初心者乗馬講座（ビギナーコース）」を開設したところであり、来年からは各競馬場に拡大していく予定です。今後も JRA では様々な取り組みを展開し、競馬産業の人材不足が少しでも解消できればと考えております。

◆ 2024 年度 競走馬育成協会役職員人事異動（3 月）

「役員人事」

【退任】

【就任】

- ◎理事 小鹿 俊秀
- ※現 東北支部長 マウンテン
- ビューステーブル代表

「職員人事」

【転出】

総務部長 太田 啓

【転入】

- ◎総務部長 西尾 章
- ◎上席調査役 成田 正一
- ◎主任調査役 富塚 貴秋
- ※業務部長、事業推進部長については変更なし

小鹿理事 ごあいさつ

2024年3月より理事を務めております小鹿俊秀です。

育成業界を取り巻く様々な課題に、協会や会員の皆様と力を合わせて取り組んで参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

生産育成牧場就業者参入促進事業 (BOKUJOB) 「BOKUJOB2024メインフェア・関西フェア」

公益社団法人競走馬育成協会 (ARR)、公益社団法人日本軽種馬協会 (JBBA)、一般社団法人日本競走馬協会 (JRHA)、公益財団法人軽種馬育成調教センター (BTC) および日本中央競馬会 (JRA) の5団体で構成するBOKUJOB事務局は、本年8月で設立満16年を迎えました。

今回の特集では、BOKUJOBの中核イベントである「BOKUJOB2024メインフェア」、およびコロナ禍による中止から5年ぶりの実施となった「BOKUJOB2024関西フェア」について報告します。



◎ BOKUJOB2024 メインフェア

6月1日(土)、2日(日)にJRA東京競馬場フジビュースタンド1階イーストホールにおいて、競走馬の牧場への就職に関心をもつ若者向けのイベントであるBOKUJOB2024メインフェアが開催されました。コロナ禍による休止をはさみ今回が12回目となります。昨年同様に安田記念(GI)施行週の開催であり、2日目午後には小雨が降ったものの概ね好天に恵まれたこともあって高校生・大学生を中心とした相談者254名(前年232名)、保護者や学校関係者128名(前年121名)、その他見学者等を含めて総計486名(前年453名)と多くの来場を得、BOKUJOBや牧場の仕事への関心の高まりが窺えました。



盛況であった相談エリア

27牧場(前年23牧場)が参加し、ブースを設置しました。相談者が希望するブースを訪れて担当者とは面談することを基本としつつ、BOKUJOB事務局員が牧場や牧場の仕事をよく知らない相談者と面談するための「交流エリア」を拡張したり、交流エリア内に「案内デスク」を設置したりして面談が円滑に行えるよう努めました。この結果、2日間で756件の

相談が行われました。

「研修相談・進路相談エリア」にはJBBA、BTC、JA しずない、ひだか・ホース・フレンズ、および北海道静内農業高校の5団体が出展し、研修や進路に関する相談を受けました。

BOKUJOBを通じて認知度が上がり、JBBA およびBTCの研修の相談は増加傾向にあります。メインフェア直前に自己負担の減額が発表されたこともあり、大勢の相談者がブースを訪れました。将来の目的を明確に持つ者が多いことが印象的であり、7月以降に予定されている研修コース合同見学会や、各団体が独自に開催する体験入学会に関する質問も多かったようです。今回初参加となったひだか・ホース・フレンズでは、社会人を中心に日高の牧場での就業を目的とした短期研修の希望者が見受けられました。

北海道静内農業高等学校の面談ブースでは、牧場への就職を視野に入れた小中学生と保護者が進学について熱心に相談していました。

「競走馬のふるさと案内所」は入口付近に設置し、多くの来場者が出展牧場・研修機関のパンフレットや「牧場見学ルール＆マナー」を手にする姿が見受けられました。



Zoomを使った「Web面談コーナー」

昨年から設置したWeb面談コーナーでは、5牧場と公益社団法人日本装蹄蹄協会が相談を受けました。コロナ禍の中で幅広い層に利用が広がったZoomは使い慣れたツールであり、円滑に相談が行われていました。

この時期は出産シーズンの直後、2歳馬のデビュー時期が重なることもあって、会場参加が叶わない牧場も少なくありません。このような参加牧場にとって、Web面談は有用なコンテンツであると言えます。



SNSによる情報発信の強化

メインフェアの相談者数は昨年と比べて増加しましたが、その要因の一つとしてSNSによる情報発信の強化が挙げられます。

特にXでは、メインフェアの開催告知開始後も参加牧場紹介等のポストを毎日行いました。また、BOKUJOBのInstagramやFacebookでも開催告知回数を増やす等の強化を図りました。参加の契機としてSNSの閲覧を挙げた者も多数おり、その重要性が再認識されました。



相談者アンケート

相談者アンケートからは、

- ・実際に働いている方の話を聞いて良かった。
 - ・仕事の内容が分かり、牧場就業へのビジョンが見えたので意欲が高まった。
 - ・パンフレットやネットからの情報だけでは分からない多くのことを知ることができた。
 - ・牧場の仕事についてよく知ることができた。
 - ・馬に関わる仕事について具体的にイメージできた。
- インターンシップにも参加してみたい。

など感想があがったほか、

- ・開催回数を増やしてほしい。
- ・関東以外でもフェアを開催してほしい。

などの意見も寄せられました。

牧場アンケート

参加牧場のアンケートからは、

- ・一人当たりの時間を長く取れた。
- ・意欲的な相談者が多く、深い話ができて良かった。
- ・卒業後の進路として検討している人が多く、嬉しかった。

・多くの人が牧場の仕事に興味を持っていることを知り、嬉しい気持ちになった。

・有意義な Web 面談ができた。

などの評価を得たほか、

- ・来場者が多く、会場が手狭であった。
 - ・Web 面談の参加者が少なかった。コロナ禍で Web 面談の良さを実感したが、ブース出展を検討する。
- などの意見も寄せられましたが、今年のメインフェアは概ね好評であったと考えています。アンケートの結果は、今後の参考とさせていただきます。



◎ BOKUJOB2024 関西フェア

10月26日（土）、27日（日）にJRA京都競馬場ステーションサイド3階特設エリアにおいて、「BOKUJOB2024関西フェア」が開催されました。コロナ禍による休止を経て5年ぶりの開催となりました。競馬場の改装工事や開催日割の変更もあり、会場は阪神競馬場から京都競馬場、時期も6月から10月に変更となりました。この時期の開催により、2026年以降に卒業見込みの高校生、大学生が相談を通じて牧場就業への関心を高め、牧場で働こう体験会、研修コース合同見学会などのBOKUJOBイベントや牧場でのインターンシップに参加する契機となることが期待されます。

関西に加えて北海道に拠点を持つ18牧場と5団体、計23のブース出展があり、前回2019年の14牧場・団体から大幅増となりました。

広く静かな相談会場

今回の会場は、メインフェアと比較してスペースにゆとりがあり、ブース間の距離が広くて会場内の移動もスムーズに行えました。また、人通りが少なく、静かで落ち着いた環境で相談を行うことができました。メインフェアと同様に「案内デスク」を設置し、

会場内を「就業相談エリア」、「研修相談・進路相談エリア」、「交流エリア」に分けて円滑な運用に努めました。両日とも開始1時間後には順番待ちが発生しましたが、案内デスクの活用により長時間には至らず、混乱なく相談が進みました。

2日間を通じ、関西在住を中心に相談者107名が訪れ、延べ375件、1名平均3件を越す相談に臨み、牧場での仕事に対する関心の高さが窺えました。メインフェアと比較して相談者の回転が早い印象で、参加者の満足度も高かったと推察されました。

参加牧場は、パンフレットやPCを使用して視覚に訴える効果的な説明を行うとともに、採用担当者等が面談を行っていました。また、メインフェア同様に複数相談者への同時対応、交流エリアや空きスペースを利用した対応も見られました。

研修相談・進路相談エリアには、JBBA、BTC、JA しずない、ひだか・ホース・フレンズ、北海道静内農業高校の5団体が出展し、研修や進路に関する相談を受け付けました。研修費用が大きく減額されることもあり、JBBAとBTCには研修コース合格者決定後にもかかわらず、来年以降の受検を検討する者とその家族を中心に多くの相談者が訪れました。JA しずないは日高地方の地域情報に加えて、フェアに参加できない牧場の求人情報を提供していました。また、静内農業高校には遠方からも含め、進学を真剣に検討する複数の中学生が訪れました。

研修を経てスキルを身につけた就業希望者は牧場からのニーズが高いことから、今後も研修相談・進路相談エリアを充実させていきたいと考えています。



SNS による情報発信の継続

関西フェアにおいても、X、Instagram、Facebook を用いて開催告知や参加牧場情報の発信を行いました。今後も SNS を通じ、牧場就業希望者を支援する BOKUJOB 活動の認知度向上に努めていきたいと考えています。

相談者アンケート

相談者アンケートからは、

- ・ネットの情報では分からない生の声が聞けてとても良かった。
 - ・各牧場担当者から業界や進路について親身の説明が受けられて良い経験となった。
 - ・牧場の仕事に漠然とした興味があったが、就業を具体的に考えることができたので、インターンシップを検討したい。
 - ・いろいろな牧場の方に相談できてよかった。今後の進路の参考になった。
- などの感想が寄せられました。

牧場アンケート

参加牧場のアンケートからは、

- ・丁度よい相談数だった。参加者も多くの牧場を回られて良かったのではないかと。



・メインフェアと比べると参加者は少なかったが、真剣に就業を検討している相談者が多くて有意義であった。

・以前よりも参加者が多いと感じた。関西だけでなく、北海道の牧場も参加したので、相談者にとって良かったのではないかと。

・初めて参加したが、ゆっくり面談できて良かった。今後も参加したい。

などのコメントがありました。また、ブース間隔が広い、ゆとりがあって良かったなどの感想がありました。

BOKUJOB2024関西フェアの来場者数は、高校生・大学生を中心とした相談者が107名、その保護者や学校関係者を含めて合計で150名でした。

以上のとおり、今年のメインフェアおよび関西フェアは成功裡に終了しました。参加くださった皆様のご協力に、誌面をお借りして御礼申し上げます。

BOKUJOBでは今後も、牧場で働こう見学会（関東・関西）、サポートデスク、牧場で働こう体験会、研修コース合同見学会等のイベント、WebフェアやWeb相談会といった活動を、年間を通じて多くの方に参加いただけるよう全国各地で展開します。また牧場就業に興味を持つ方々に向け、BOKUJOB.com、SNS、YouTubeチャンネル等を通じて情報発信し、牧場の人材確保と就業の支援を進めて参ります。関係各位におかれては、BOKUJOB活動への引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。



令和5年度・6年度 育成等に関する懇談会

JRAと競走馬育成協会（ARR）との「育成等に関する懇談会」は平成12年度から継続して開催されております。今号（62号）では、令和5年度および令和6年度懇談会の概要について、昨年来のテーマも含めて本年度を中心にお伝えいたします。

令和5年度の懇談会は昨年9月29日（金）に、令和6年度については9月27日（金）に、いずれもJRA本部においてJRAから菊田淳馬事担当理事、馬事部長、生産育成対策室長ほか馬事部担当職員、ARRは大平会長をはじめとした関係役職員が出席して開催されました。なお、本年度についてはJRAから厩舎関連室長および経営企画室長も出席され、育成業界の現状について認識いただきました。

開会挨拶

本年においては、JRA 菊田馬事担当理事の挨拶の中でJRAが抱える課題について以下3点の紹介がありました。

1. アニマルウェルフェアについて

本年4月にTAWという新しい団体を立ち上げ本格的に始動した。1頭でも多くの馬がより良いセカンドキャリアを送れるようにして参りたい。

2. 暑熱対策について

海外ではWBGTの数値も参考に中止や延期を判断する国もあるが、日本では競馬開催を止めることは難しいところ。今年については新しい試みとして2回新潟競馬において2週間にわたり時間帯を変更して実施した。この検証も踏まえながら、今後も人馬ともに無事で開催出来るようにして参りたい。

3. 人材の確保について

国内人口の減少が続く中で、全般的に人手不足の傾向であるが、競馬産業はAI化や効率化が難しい部分が多く、競馬サークル全体で力を合わせて人材の確保・養成に取り組まねばならない。現在、その対応に向けてプロジェクトが動き始めており、皆様のご協力を宜しく願いたい。

続いてARR大平会長より、以下の内容の挨拶がありました。

1. まず、この懇談会を例年開催していただけることに改めて感謝申し上げます。
2. 本日は、ARRの役員や各支部が日頃から感じている様々な事項について要望や意見を申し上げるので、議論のうえ必要な検討をぜひお願いしたい。



JRAからの報告事項

JRAからは、①「JRA育成馬売却結果」②「セリ市場の動向」③「その他」について報告と説明がありました。

③「その他」について概要は以下のとおりです。

（1）馬産業の人材不足への対応

JRAにおける組織横断的な取組みとして、「馬産業人材確保事業」の進捗について報告がなされました。事業は主に、馬に関する職業紹介ポータルサイトの運営、愛馬の日イベントや就業促進イベントへの出展、その他の広報活動により構成され、人材確保に向けて幅広い層への様々な形でのアプローチを行なっていくとのことです。

（2）育成牧場の経営基盤強化のための調査結果

ARR会員の皆様にご協力いただいたアンケートの集計結果が示されました。JRAとしては、育成牧場の現状として、人材確保の困難さやその流出への危惧、経費の高騰を預託料に容易に転嫁できないこと、施設や設備の改修等への助成への要望が強いことを再認識したとのことです。

これを受けてARRからは、アンケートにより会員の期待は高まっている状況をお伝えしました。

(3) シンガポール人材の雇用に関する取組

本年10月5日に、シンガポール競馬が廃止されます。JRAでは、同競馬場従業員の再就職への協力と我国の育成牧場における人材不足の緩和を目的に会員の皆様を対象にアンケートを実施したところ、最終的に22牧場が雇用を希望しました。この情報を現地の就職フェアに提供、19名が日本での就業を希望し、現時点で牧場へのコンタクトを準備中とのことです。

競走馬育成協会からの要望と提案事項

1. 人材の確保・養成

現在、育成業界における最大の懸案事項とも言えるこのテーマについては、昨年に引き続き以下の2点を中心に意見交換しました。

①「競馬業界の人材不足に関する検討会」の設置について

競馬サークル全体の問題である人材不足はもちろん、その他の諸課題についても解決には牧場、馬主、厩舎関係者等による横断的な話し合いの場が必要と思われることから、今年もJRA主導による「検討会」の設置を提案しました。

JRAからは、「馬産業人材確保事業」を通じて組織横断的な取組みを進めていく所存である旨、説明がありました。

② 競馬学校受験資格の改定について

令和元年に、牧場での騎乗経験が厩務員課程の応募資格から削除されましたが、それに伴って競走馬の騎乗経験が乏しい厩舎従業員が増え、トレセンの騎乗技術が低下しているとの声が上がっています。今後もこの傾向が続くと予測されることから、競馬学校入学前もしくは卒業後における一定期間の牧場勤務を課すことを提案しました。このサイクルが確立すれば、調教技術のレベル向上に加え、期限付とはいえ牧場の人材確保の一助となることが期待されます。

JRAとしては、厩務員課程の募集時に、「牧場経験があることが望ましい」と付言することを検討するとのことでした。

2. 育成技術表彰

育成技術表彰事業は、デビュー前の若馬の調教や競走間の調整など、育成の成果に対する評価として会員の期待には極めて大きいものがあり、生産者賞のような競馬からの直接的な恩恵がない育成業者に

としては、褒賞金はいわば唯一のインセンティブであり、モチベーションの源ともなっています。

JRAの助成による褒賞費は平成21年以降、育成技術表彰規程に定める原則単価100,000円を下回っていましたが、本年より一律100,000円の交付が実現したところでした。育成業へのJRAの理解に改めて感謝するとともに、一律100,000円の単価を恒久的に維持出来るよう、今後の支援を要請しました。

一方、2歳重賞6競走の会員表彰は各所の協力の下、引き続き本年も実施できています。本制度も会員の大きな励みとなっているものであり、引き続きの理解と対象競走の拡大についてもお願いしました。

JRAからは、褒賞金の意義は理解しており単価の維持に努めるが、助成金額は発売金の影響も受けることはご理解いただきたいところ。また、表彰対象レースの拡大については、次レース発走時刻への対応から現状では困難であるとの見解でした。

3. 育成牧場の経営基盤強化

国際情勢、地球規模での天候不順、為替変動の影響などを背景に、育成牧場の経営環境には厳しいものがあります。この観点も踏まえ、今年もこのテーマに関連して以下の意見交換を行ないました。

① 利子補給事業

令和5年度には新規4件、令和6年度には同じく2件の申請を受けており、現在19案件に交付しています。今後も活用が見込まれることから、引き続き安定的に運用できるような支援を要望し、JRAとしては、低金利で基金の運用益が少ない状況ではあるが、引き続き関係各所と調整して支援していくとのことでした。

② 競馬関連機材等有効活用事業

本事業は、JRAをはじめとした関連団体の協力のもとに実施しています。牧場独自での購入が難しいような機材を入手する機会であることから会員の関心は非常に高く、抽選倍率も年々増加していることから、今後もより多くの機材を提供できるよう、一層の協力を要望しました。これを受けて、JRAは施設部門などとも十分に連携のうえ協力していくとのことでした。

③ 飼料等高騰緊急対策事業

飼料の価格が高止まって個々の経営努力で対応できる範囲が限られている現状においては、当給付金は非常に意義があることから、引き続きの給付に向けての支援と、また給付額の増額についても併せて

要望しました。

JRA からは、来年度以降は緊急事業として関係機関の同意を得られるか不透明な状況にあるとの説明がありました。

④ 経営基盤強化のためのアンケートについて

JRA からの報告事項（2）に記載したとおり、分析結果の今後の各施策への反映が期待されます。

⑤ 人材養成に係る負担に補完

生産・育成牧場が人材確保に苦慮していることについては JRA も理解しているところですが、特に育成牧場では人材の養成に相当の期間を要すること、併せてそれに要する経済的な負担も決して小さくは無いことから、中央競馬へ人材を輩出した牧場へは、次の人員補完に向けた支援策等の検討をお願いしました。

④、⑤を通じて JRA からは、中央競馬や他牧場への流出が大きな問題であると理解しており、中央競馬への流出に限って補完することは困難である。今後は、人員の補完に替えて競馬サークル全体の人の流れが円滑化になるような方策を検討していきたいとの説明がありました。

4. その他

① トレセン近郊における公共的育成調教施設の必要性

北海道では、中小の育成牧場が BTC 施設を積極的に活用することにより育成馬の競走成績を向上させるとともに、新たなビジネスモデルを構築するなどして周囲の育成業者にも好ましい影響を与えています。競走馬の一層のレベルアップのために、東西トレセン近郊においてもこのような環境が整備されるよう、昨年までと同様に要望しました。

JRA からは、提案の施設が競走内容の充実に有益であると理解するが、現実問題としては長期的な検討を要するとの見解が示されました。

② 施設および設備の導入、改善に対する補助事業

施設設備の維持や改善のニーズは多様であることから、施設・設備の導入・改善に幅広く活用できる新たな補助事業の設置を昨年に続いて要望しました。

JRA からは、育成業界発展に向けた事業の必要性は認識しているが、新設には障壁も小さくない。現状では、利子補給事業の活用をお願いしたいとの見解が示されました。

③ 厩務員のストライキについて

今年、トレセン厩務員のストライキがあったが、保安要員（給餌担当）が配置されていなかったこと

は動物福祉の観点から問題であり、動物愛護団体からの批判、ひいては競馬そのものへの否定にも繋がりが兼ねない。JRA は、馬の福祉の重要性をトレセン関係者により強く認識させるべきであると意見具申しました。

JRA からは、馬の福祉も念頭に開催実施に踏み切ったが、考慮すべき意見であるとの見解が示されました。

④ 競技者ではない馬術部員に対する馬業界就労へのアプローチについて

牧場就業者は即戦力であることが望ましいが、騎乗技術は高くなくとも馬の取扱に長けている高校馬術部員は相当数いる。これらの人材の多くが卒業後は馬から離れていることから、競技を目指さないような馬術部員に対する競馬産業への参入促進にも取り組むことを提言しました。

JRA からは、そのような部員の多くが一般企業に就職をしている現状は認識しており、今後は説明の場を用意して取り込めるようにしたいとの説明がありました。



2024 年度「定時総会」を開催

2024年度定時総会は、本年2月16日（金）14:00から日本中央競馬会本部4階会議室において、昨年に引き続き通常開催として実施されました。

冒頭に大平会長より育成協会各会員に対して、平素よりの協会運営及び競馬事業への理解・協力を謝意が表されました。また、国内においてはコロナ感染症が5類移行となり落ち着きを取り戻しつつある中、中東情勢等に起因した原油や農産物の価格高騰や地政学リスクが世界的な問題となりつつあり、我が育成業界も飼料価格等の高騰による影響や、加えて、国内全体の慢性的な人手不足の影響も受けている状況が披露されました。協会としても、会員の皆様の経営安定化に向けて、業界を取り巻く様々な問題の解決に向けて寄与していきたいとの意向が伝えられました。

引き続き、農林水産省競馬監督課 水野課長、日本中央競馬会 菊田理事のご挨拶ののち、定款第18条に基づき荻野豊氏が議長に選出されました。以下の議案が審議され、原案のとおり承認されました。

第1号議案「2023年度事業報告及び2023年度財務諸表について」

第2号議案「2024年度会費等の額及び徴収の方法について」

第3号議案「理事の選任について」

その他として、出席会員より人手不足に関する活発な意見表明がありました。

2024 年度 役員一覧

役職	氏名	備考
理事	大平 俊明	会長
理事	和田 信也	副会長 (常務理事兼任)
理事	中内田克二	副会長
理事	荻野 豊	
理事	飯田 正剛	
理事	岡田 紘和	
理事	小鹿 俊秀	新任
理事	沖崎誠一郎	
理事	柏木 務	
理事	宮島 成郎	
理事	織田 信美	
監事	五島 崇	
監事	岩崎 幸治	

※新任の理事として、小鹿 俊秀氏が選任されました。



育成技術講習会

2023年

育成技術講習会はJRA、BTC および当協会の3団体共催での講習会として、以下の通り開催しました。会員の皆様より好評をいただきました。また、各地区で不定期に開催されている講習会についても地区ごとに案内いたしました。

開催地区	開催日時	開催場所	演題／講師
東北	9月7日	八戸家畜市場	軽種馬生産に影響を及ぼす様々な細菌感染症～その原因と対策～
	13:30～15:00		JRA 競走馬総合研究所 丹羽秀和 氏
九州	9月27日	JBBA 九州種馬場	軽種馬生産に影響を及ぼす様々な細菌感染症～その原因と対策～
	13:30～15:00		JRA 競走馬総合研究所 丹羽秀和 氏
北海道	10月4日	新ひだか町公民館	競走馬のトレーニングについて
	18:00～19:30		JRA 美浦 TC 大村 一 氏
関東	11月22日	JRA 美浦 TC	最適なコンタクトで馬のバランスを整える方法
	13:00～14:00		JRA 馬事公苑 北原広之 氏・吉澤和紘 氏・西脇文泰 氏
関西	11月29日	JRA 栗東 TC	最適なコンタクトで馬のバランスを整える方法
	13:00～14:00		JRA 馬事公苑 北原広之 氏・吉澤和紘 氏・西脇文泰 氏

2024年

2024年度の開催については11月1日現在で以下の通りの開催を実施、予定しておりますが、主催者の都合により変更となる場合があります。実施の有無および予定の変更については、随時協会 HP を通じてお知らせします。

開催地区	開催日時	開催場所	演題／講師
北海道	6月20日	新ひだか町公民館	育成馬の栄養管理／JRA 日高育成牧場 松井 朗 氏
	18:00～19:30		競走馬の暑熱対策について／JRA 日高育成牧場 大村 一 氏
東北	9月5日	八戸家畜市場	「強い馬づくり」のための放牧管理
	13:30～15:00		JRA 日高育成牧場 松井 朗 氏
九州	10月1日	南九州獣医学拠点 (鹿児島県曾於市)	「強い馬づくり」のための放牧管理
	13:30～15:00		JRA 日高育成牧場 松井 朗 氏
関西	11月20日	JRA 栗東 TC	馬のバランスを起こす
	13:00～14:00		JRA 馬事公苑 戸本一真 氏
関東	11月27日	JRA 美浦 TC	馬のバランスを起こす
	13:00～14:00		JRA 馬事公苑 戸本一真 氏・佐渡一毅 氏

育成技術表彰事業

1. 育成技術表彰事業について

平成11年11月29日制定「育成技術表彰規程」により、平成12年度から現在の表彰事業が重賞競走を対象に開始されました。平成13年度には、育成段階の成果が反映され易いと考えられる新馬競走が表彰対象に加わり、重賞競走とともに表彰が行われてきました。更に、順次表彰対象の拡充・充実が行われ、平成31年度（令和元年度）にはリステッド競走が新たな対象となりました。

平成20年度に実現した重賞2歳ステークス競走の施行場における育成者表彰は、一時コロナ禍で中止を余儀なくされていたものの令和5年より通常通り開催され、令和6年は阪神競馬場改築に伴う開催日割りの変更に伴い、小倉2歳ステークスが中京競馬場で実施され、来年度以降は中京2歳ステークスと名称変更して行われる予定です。

2. 令和5年度の表彰事業について

- (1) 令和5年度の表彰件数は、対象567競走のうち

374競走でした。該当率については、特に2歳新馬競走で83.7%、2歳重賞（含交流）・リステッド競走で95.0%と高く、対象競走全体でも66.0%と高い水準を維持する結果となりました。

- (2) 令和5年度の褒賞金は1レースあたり、3歳以上OP競走で24,960円、これを除くJRAからの助成により実施するレースで85,790円でした。

3. 令和6年度の実施について

- (1) 表彰要件等については本年度から3歳以上OP競走についても助成金による褒賞金に変更され、一律10万円が支給されることになりました（表1）。
- (2) 令和6年度の表彰件数の状況は、10月31日現在対象443競走のうち268競走が該当しています。該当率については、2歳新馬競走で74.6%、2歳重賞（含交流）・リステッド競走で88.9%、対象競走全体でも60.5%と、令和5年より低いものの高い水準を維持する結果となっています。

表1. 令和6年度からの表彰要件について

種目	表彰要件	賞金
1. 新馬競走 2歳新馬競走 3歳新馬競走	満1歳になる年度の9月1日～12月31日までの間に騎乗馴致を開始し、翌年の5月31日までの期間に継続して150日以上育成し、優勝した馬を育成した正会員	一律 10万円
2. 2歳重賞競走等 (1) 2歳重賞競走 (2) 2歳重賞指定交流競走（地方競馬施行） (3) 2歳リステッド競走		
3. 障害重賞競走	継続して60日以上障害調教を行った馬であって、トレセン等入厩後42日以内に障害試験に合格し、優勝した馬を育成した正会員	
4. 平地重賞競走等（2歳限定競走を除く） (1) 平地重賞競走 (2) 平地リステッド競走	トレセン等入厩直前に、継続して14日以上育成調教を行った馬であって、トレセン入厩後30日以内に優勝した馬を育成した正会員	
5. 1～4以外の平地オープン競走（2歳及び3歳限定競走を除く）		

注1. 前年度の12月31日現在、当協会の正会員であること。

注2. ただし、障害重賞競走にあっては、障害調教開始日現在において、当協会の正会員であること。

R5	3歳限定を除く3歳馬以上のOP	25勝 / 57R	43.9%
	3歳馬以上の重賞	48勝 / 115R	41.7%
	3歳馬以上のリステッド	30勝 / 63R	47.6%
	2歳重賞・リステッド（含む交流）	19勝 / 20R	95.0%
	障害重賞	0勝 / 10R	0.0%
	3歳新馬	37勝 / 45R	82.2%
	2歳新馬	215勝 / 257R	83.7%
計	374勝 / 567R	66.0%	

R6	3歳限定を除く3歳馬以上のOP	21勝 / 48R	43.8%
	3歳馬以上の重賞	35勝 / 99R	35.4%
	3歳馬以上のリステッド	29勝 / 53R	54.7%
	2歳重賞・リステッド（含む交流）	8勝 / 9R	88.9%
	障害重賞	0勝 / 8R	0.0%
	3歳新馬	40勝 / 45R	88.9%
	2歳新馬	135勝 / 181R	74.6%
計	268勝 / 443R	60.5%	

令和6年10月31日現在

2023年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

※ 11月以降

日付	曜	場	回	競走名	G	馬名	性	会員番号	牧場名	プレゼンター
11/4	土	東京	第59回	京王杯 2歳ステークス	II	コラソنبート	牝	1073	(有)ビッグレッド ファーム	大平俊明 会長
11/11	土	京都	第58回	デイリー杯 2歳ステークス	II	ジャンタルマンタル	牡	1033	社台ファーム	中内田克二 副会長

2024年度 2歳重賞競走の施行競馬場における表彰

日付	曜	場	回	競走名	G	馬名	性	会員番号	牧場名	プレゼンター
7/13	土	函館	第56回	函館 2歳ステークス	III	サトノカルナバル	牡	1056	ノーザンファーム	岡田紘和 理事
8/25	日	新潟	第44回	新潟 2歳ステークス	III	トータルクラリティ	牡	1056	ノーザンファーム	沖崎誠一郎 理事
8/31	土	札幌	第59回	農林水産省賞典札幌 2歳ステークス	III	マジックサンズ	牡	1056	ノーザンファーム	大平俊明 会長
9/1	日	中京	第44回	小倉 2歳ステークス	III	エイシンワンド	牡	-	対象外	和田信也 副会長
11/2	土	東京	第60回	京王杯 2歳ステークス	II	パンジャタワ	牡	-	対象外	大平俊明 会長
11/9	土	京都	第59回	デイリー杯 2歳ステークス	II	ランフォーヴァウ	牝	1033	社台ファーム	中内田克二 副会長



2023年



2023年11月4日（土）東京競馬場
第59回京王杯2歳ステークス（GⅡ）
優勝馬 コラソンビート（牝）
表彰会員名【1073】（有）ビッグレッドファーム
プレゼンター：大平俊明 会長



2023年11月11日（土）京都競馬場
第58回デイリー杯2歳ステークス（GⅡ）
優勝馬 ジャンタルマンタル（牝）
表彰会員名【1033】社台ファーム
プレゼンター：中内田克二 副会長

2024年



2024年7月13日（土）函館競馬場
第56回函館2歳ステークス（GⅢ）
優勝馬 サトノカルナバル（牡）
表彰会員名【1056】ノーザンファーム
プレゼンター：岡田紘和 理事



2024年8月25日（日）新潟競馬場
第44回新潟2歳ステークス（GⅢ）
優勝馬 トータルクラリティ（牡）
表彰会員名【1056】ノーザンファーム
プレゼンター：沖崎誠一郎 理事



2024年8月31日（日）札幌競馬場
第59回農林水産省賞典札幌2歳ステークス（GⅢ）
優勝馬 マジックサンズ（牡）
表彰会員名【1056】ノーザンファーム
プレゼンター：大平俊明 会長



2024年11月9日（土）京都競馬場
第59回デイリー杯2歳ステークス（GⅡ）
優勝馬 ランフォーヴァウ（牝）
表彰会員名【1033】社台ファーム
プレゼンター：中内田克二 副会長

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業は、公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成を受け、軽種馬経営の強化安定に資する目的により、協会会員を対象に軽種馬の育成調教に係る施設、機械、草地等の経営環境の整備・改善に必要な資金を融通する融資機関に対し利子補給を行うものです。

本事業における貸付対象は、大きく以下の3種類に分類されます。

①生産育成施設整備資金

厩舎、馬場、放牧柵およびその他協会が認める生産育成施設の改良、造成または取得に必要な資金

②生産育成機械等取得資金

牧草収穫調整用機械、農用地改良造成用機械、馬運車を含む運搬用機械、糞尿処理施設等環境汚染防止施設およびその他協会が認める生産育成用機械の改良、造成または取得に必要な資金

③草地更新等整備資金

草地更新等整備に必要な資金

本事業は、平成5年より国が実施する農業近代化資金制度に準じた形態で実施していますが、平成22年までは9件の利用実績に止まっていた。

しかし、長引く低金利時代を設備投資の好機と捉えてか、令和5年度はさらに新規4件の交付申請があり、現在19案件に交付しています。これに伴い、令和6年度は公益財団法人全国競馬・畜産振興会の助成額を増額しております。すでに2件の問合せがあり、下半期から交付できるよう調整中です。

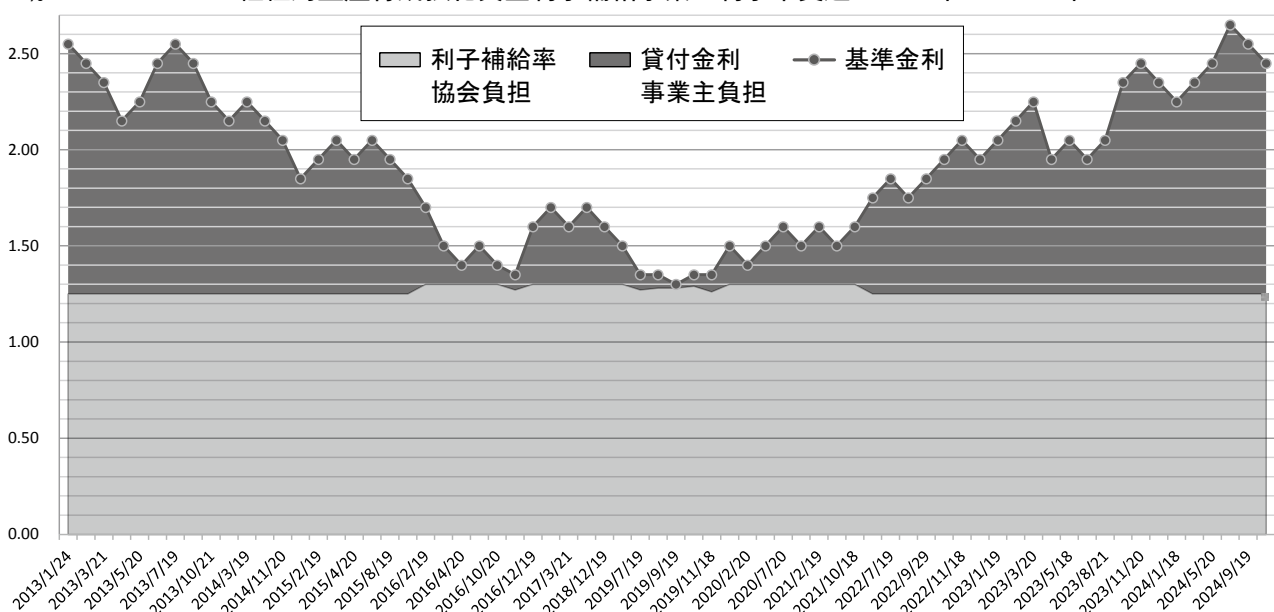
これまで利用実績のある融資機関としては、北海道銀行早来支店、北洋銀行静内支店、日高信用金庫本店営業部ならびに静内支店、常陽銀行美浦支店、筑波銀行美浦支店、滋賀県信用農業協同組合連合会、滋賀銀行八日市東支店および関西みらい銀行信楽支店があります。

本事業のご利用を検討されている会員は、協会業務部までご連絡ください。

●融資状況 (2024年11月1日現在)

承認年	地区	承認額 (千円)	基準金利	利子補給	貸付金利
2017年	北海道	144,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	300,000	1.40%	1.30%	0.10%
	関東	43,000	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	80,000	1.60%	1.30%	0.30%
2018年	北海道	85,000	1.60%	1.30%	0.30%
2019年	関東	100,000	1.50%	1.30%	0.20%
	関東	25,900	1.35%	1.28%	0.07%
2020年	関東	9,890	1.50%	1.30%	0.20%
	関西	100,000	1.60%	1.30%	0.30%
2021年	北海道	10,000	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	6,500	1.60%	1.30%	0.30%
	北海道	16,000	1.50%	1.30%	0.20%
2022年	北海道	96,780	1.75%	1.25%	0.50%
	北海道	50,000	1.75%	1.25%	0.50%
	北海道	100,000	2.05%	1.25%	0.80%
2023年	北海道	40,960	2.05%	1.25%	0.80%
	関西	220,000	1.25%	1.25%	0.00%
	関西	80,000	1.54%	1.25%	0.29%
	関東	50,000	2.35%	1.25%	1.10%

軽種馬生産育成強化資金利子補給事業 利率変遷 2013年～2024年



競馬関連機材等有効活用事業

競馬関連機材等有効活用事業は、会員の育成調教施設用機材の投資負担を軽減して経営の安定化を図ることを目的に、2003年より JRA および関連団体で使用を取りやめた競馬関連機材の提供を受け、会員への再利用を斡旋（有償、無償）しています。

2023年度においても10月に15件もの募集が実現、2024年度は3月と10月にそれぞれ11件、14件の募集が実現し、会員に配付されました（一部応募数が募集数を上回る機材については、監事立会いのもとで厳正な抽選を実施し、配布する会員を決定しています）。募集要項および結果等の詳細については、随時協会ホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

来年度におきましても、秋季を目途に機材の情報提供を行うべく準備を進めますので、各地域団体（支部）からのお知らせおよび協会ホームページをご確認ください。

今後も、JRA、JRAF ならびに JSS 関係者の皆様のご協力を賜り、ご提供いただける機材の情報収集に努めてまいります。

競馬関連機材等有効活用事業対象機材の抽選結果

① 2023年度・第1回〔10月20日（金） 15件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	軽自動車（ダンブタイプ）・栗東	1台	運搬用	2015年 〔平成27〕	¥450,000	11	5	1	7	北海道
2号	ライトバン（プロボックス）・美浦	1台	移動用	2011年 〔平成23〕	¥64,710	6	2	0	4	北海道
3号	フォークリフト・京都	1台	運搬用	1999年 〔平成11〕	無償	11	0	4	15	北海道
4号	トラクターショベル・美浦	1台	砂補充等	2010年 〔平成22〕	¥880,000	14	0	4	18	関東
5号	トラクターショベル・栗東	1台	砂補充等	2008年 〔平成20〕	¥1,980,000	12	0	3	15	関東
6号	バックホウ・美浦	1台	土木作業等	2007年 〔平成19〕	¥1,210,000	5	0	0	5	北海道
7号	サイドレーカー（トラクター付）・美浦	1台	整地用	2011年 〔平成23〕	¥100,000	14	0	0	14	九州
8号	フロントモア 3連・栗東	1台	芝刈り用	1996年 〔平成8〕	¥55,000	11	1	1	11	北海道
9号	ライムソワー・栗東	1台	散布用	2007年 〔平成19〕	無償	1	0	0	1	関東
10号	パワーハロー5m・美浦	1台	ハロー掛け	2012年 〔平成24〕	¥50,000	9	0	4	13	北海道
11号	爪ハロー5m・函館	1台	ハロー掛け	2006年 〔平成18〕	無償	2	0	0	2	北海道
12号	爪ハロー6m・東京	1台	ハロー掛け	2010年 〔平成22〕	無償	0	0	0	0	該当なし
13号	芝コース 外固定柵・新潟	1台	直線走路外柵	2000年 〔平成12〕	無償	4	2	0	2	関東
14号	芝コース 外移動柵・京都	1式	移動柵	不明	無償	5	2	0	3	北海道
15号	馬道柵・アルミ固定・美浦	1式	馬道柵	1978年 〔昭和53〕	無償	3	1	0	2	関東

※ 優先倍率の適用について：前回、同種機材の抽選に外れた取得希望会員に対し、今回の抽選に限り2個の玉を投入した。

※ 9号：応募が1件であったため、無抽選で取得者を決定した。

※ 11号：応募者が他の機材を選択したため、順位の高い会員が2件目の取得となった。

※ 12号：該当者なし

② 2024年度・第1回〔3月11日（月） 11件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	発馬機12枠・競馬学校	1台	練習用	2007年 〔平成19〕	¥11,000	2	0	0	2	関東
2号	発馬機10枠・札幌	1台	練習用	2007年 〔平成19〕	¥11,000	2	1	0	1	関東

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
3号	発馬機10枠・函館	1台	練習用	2007年 (平成19)	¥11,000	2	1	0	1	北海道
4号	発馬機12枠・栗東	1台	練習用	2014年 (平成26)	¥40,700	1	0	0	1	関東
5号	馴致用発馬機4枠・三木	1台	馴致用	2002年 (平成14)	無償	14	2	1	13	東北
6号	トラクター・函館	1台	作業用	2007年 (平成19)	¥11,000	2	0	1	3	北海道
7号	トラクター・中京	1台	作業用	2015年 (平成27)	¥143,000	13	5	2	10	北海道
8号	トラクター・中京	1台	作業用	2015年 (平成27)	¥143,000	11	4	2	9	北海道
9号	トラクター・京都	1台	作業用	2015年 (平成27)	¥143,000	11	4	2	9	北海道
10号	障害内柵・阪神	1式	走路柵	1998年 (平成10) 他	無償	6	3	0	3	関西
11号	爪ハロー6m・東京	1台	ハロー掛け	2011年 (平成23)	無償	1	0	0	1	関東

※ 4号、11号：応募が1件であったため、無抽選で取得者を決定した。取得者については、要領第6条5項によりそのほかの機材について選定から除外した。

※ 1号：応募者がいずれも今回の無抽選投票の対象者のため、要領第6条5項により取得者を決定した。

※ 2号、3号：要領第6条4項により取得者を決定した。

※ 優先倍率の適用について：前回初応募で同種機材の抽選に外れた取得希望会員に対し、今回の抽選に限り2個の玉を投入した。

③ 2024年度・第2回〔10月21日(月) 14件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
1号	ウニモグ(U-300型)・美浦	1台	ハロー掛け	2014年 (平成26)	無償	7	3	0	4	関東
2号	馬糞清掃車 27-1・栗東	1台	馬糞清掃用	2015年 (平成27)	¥1,100,000	1	0	0	1	関東
3号	障害内柵(柵笠木FRP製・支柱鉄製)・京都	1式	走路柵	2000年(平成12) 2002年(平成14)	無償	5	3	0	2	北海道
4号	障害内柵(柵笠木・支柱:FRP製)・東京	1式	走路柵	1991年 (平成3)	無償	4	1	1	4	関東
5号	障害内柵(柵笠木・支柱:FRP製)・小倉	1式	走路柵	1998年 (平成10)	無償	1	0	0	1	関東
6号	障害内柵(柵笠木・支柱:アルミ製)・小倉	1式	走路柵	1998年 (平成10)	無償	1	0	0	1	関東
7号	障害内柵(柵笠木FRP製・支柱鉄製)・小倉	1式	走路柵	1998年 (平成10)	無償	1	0	0	1	関東
8号	タインハロー 25-1・栗東	1台	整地用	2013年 (平成25)	無償	2	1	0	1	関東
9号	爪ハロー(6m)・京都	1台	ハロー掛け	2002年 (平成14)	無償	1	0	0	1	関東
10号	爪ハロー(6m)・京都	1台	ハロー掛け	2002年 (平成14)	無償	1	0	0	1	関東
11号	爪ハロー(6m)・福島	1台	ハロー掛け	2009年 (平成21)	無償	1	0	0	1	関東
12号	爪付き柵ハロー(4m)・福島	1台	ハロー掛け	1991年 (平成3)	無償	2	1	0	1	関東
13号	開催用発馬機(8枠)・中京	1台	開催用	2016年 (平成28)	¥517,000	0	0	0	0	該当なし
14号	発馬機(矯正用)3枠・美浦	1台	練習用	2014年 (平成26)	¥11,000	8	3	0	5	関東

※ 1号、3号、4号、8号、12号、14号：要領第6条5項、6項および7項により選定の対象から一部会員を除外した。

※ 12号：応募者を無抽選投票の対象者として決定した。

※ 2号、5号、6号、7号、9号、10号、11号：要領第6条8項により応募者を無抽選投票の対象者として決定した。

※ 8号：応募者がいずれも選定の除外者であるが、要領第6条5項により取得者を決定した。

※ 優先倍率の適用について：前回初応募で同種機材の抽選に外れた取得希望会員に対し、今回の抽選に限り2個の玉を投入した。

④ 2024年度・第2回2次募集〔10月31日(木) 1件〕

通番	物件	台数等	提供者	取得年	売却価格 (税込)	応募 件数	除外 件数	優先 件数	倍率	取得会員 所属支部
13号	開催用発馬機(8枠)・中京	1台	開催用	2016年 (平成28)	¥517,000	0	0	0	0	該当なし

軽種馬経営高度化指導研修（人材養成支援）

当協会では、平成22年度から地方競馬全国協会が実施している「競走馬生産振興事業」のうち、経営基盤強化対策事業の軽種馬経営高度化指導研修（人材養成支援）により助成を受け、生産・育成技術者の海外派遣研修事業をはじめ以下の3事業を引き続き実施しています。

1. 生産育成技術者海外派遣研修事業

この事業は、海外研修に係る諸経費（交通費、研修費、宿泊費等）の一部を補助金として交付するものです。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、2020年度から2022年度まで全ての海外派遣研修の実施を見合わせてきましたが、欧米諸国への渡航制限も解除されたことから、2023年度から海外派遣研修を再開しました。

また、実施を見合わせた期間に生じた円安進行や物価高騰の影響を受け、海外派遣研修に係る諸経費が大きく増額すると見込まれたことから、2024年3月に補助率を1/2から7/10に改定（宿泊費は補助上限額を設定）し、海外派遣研修参加者の負担軽減を図りました。

2024年度の長期研修については、（公財）軽種馬育成調教センターから推薦のあった同センター第41期修了生2名について面接による選抜を予定していましたが、研修先のアイルランド競馬学校「RACE」（Raceing Academy & Centre of Education）の研修施設の再開発工のため、研修生の受入れが困難となったことから、長期研修の実施は取り止めました。

また、会員、会員牧場の従業員等を対象にした短期研修（10～11月・アメリカ合衆国）についても、希望者が最少催行人員に達しなかったことから、実施を見合わせました。

なお、長期研修（14日以上1年以内）については、随時応募を受付けています。研修制度の詳細は、協会ホームページをご覧ください。

2. 修学奨励金交付事業

国内軽種馬関係機関が国内の軽種馬生産・育成の仕事に就くための者を養成する目的で設置した研修施設で教育を受けようとする者のうち、意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に対して修

学奨励金を交付する事業で、現在は（公社）日本軽種馬協会静内種馬場、（公財）軽種馬育成調教センターおよび協会が特に指定する研修所で研修を受講する者について、審査のうえ交付対象者としています。2024年11月までの承認件数は、合計5件でした。

3. 生産育成牧場就業者参入促進事業

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材を確保するため、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することにより就業者の参入を促進する事業です。

「BOKUJOB2024メインフェア」および「BOKUJOB2024関西フェア」（詳細は特集ページをご覧ください）を中心に日帰り見学会や夏休み期間を利用した滞在型体験会等のイベント実施、競走馬生産・育成牧場就業応援サイト「BOKUJOB.com」による生産・育成牧場の求人情報や仕事内容等の情報発信を主な活動としており、「いくせい」第61号発行後から2024年11月までの間のBOKUJOBの活動状況は以下のとおりです。

1) 「BOKUJOB2024牧場で働こう見学会」

2024年度は、牧場就業希望者やその保護者等を対象に、関東地区は3月9日にビッグレッドファーム銚田トレーニングセンター様、KSトレーニングセンター様および松風馬事センター様のご協力をいただき、また関西地区は3月16日にグリーンウッドトレーニング様、信楽牧場様およびノーザンファームしがらき様のご協力をいただき、日帰りでの見学会を実施しました。

2) 「BOKUJOB2024メインフェア」・

「BOKUJOB2024関西フェア」

2024年度の実施概要は、特集ページをご参照ください。

3) 「BOKUJOB2024研修コース合同見学会」

2024年度は、（公社）日本軽種馬協会（以下「JBBA」という。）および（公財）軽種馬育成調教センター（以下「BTC」という。）が実施する研修の受講検討者を対象に、夏休み期間の7月18日～19日【A日程】、8月15日～16日【B日程】の2日程（1泊2日）で、参加者61名（A・B日程合計）がJBBA・BTCの研修施設や研修風景および寮施設を見学するとともに、教官や現役研修生と交流する「BOKUJOB2024研修

コース合同見学会」を実施しました。

また、企業の新卒者の採用活動時期が早まっていることを踏まえ、研修受講の早期検討を促すこと目的に、2026年4月以降の受講検討者を対象とした見学会を実施することとし、9月22日～23日に「BOKUJOB2024研修コース合同見学会」【C日程】として、20名が参加して研修施設等の見学、現役研修生等との交流を実施しました。

4) 「BOKUJOB2024牧場で働こう体験会」

2024年度は、7月28日～8月2日の日程でビクトリーホースランチ様、杵臼牧場様、谷口牧場・浦河育成センター様および笹島智則牧場様にご協力いただき、牧場就業やJBBA・BTC研修受講を検討している参加者15名が、協力牧場で3日間の就業体験を行う「BOKUJOB2024牧場で働こう体験会」を実施いたしました。なお、この体験会では、JBBA様、BTC様、ビッグレッドファーム様および社台スタリオンステーション様にご協力いただき、施設見学等を実施しました。

5) 「BOKUJOB2024サポートデスク」

2024年度は、JRA競馬場や馬術競技大会会場等で、以下の日程および場所でサポートデスクを設置し、牧場就業希望者に対する相談対応、BOKUJOB活動の広報等を実施しました。

【2023年度】

- ・10月25日～26日 菊池農業高等学校・熊本城ホール（日本学校農業クラブ全国大会）
- ・11月1日～4日 三木ホースランドパーク（全日本学生馬術大会2023）

【2024年度】

- ・7月13日～14日 JRA小倉競馬場
- ・7月24日 御殿場市馬術・スポーツセンター（全日本高等学校術競技大会）
- ・8月7日～9日 ノーザンホースパーク（全日本高等学校馬術選手権大会）
- ・8月12日 JRA宮崎育成牧場
- ・8月31日～9月1日 JRA中京競馬場
- ・9月23日 JRA栗東トレーニング・センター
- ・9月27日～29日 ノーザンホースパーク（RRC2024・第46回北海道地区乗馬大会）
- ・10月23日～24日 盛岡市総合アリーナ（日本学校農業クラブ全国大会）
- ・10月31日～11月3日 JRA馬事公苑（全日本学生馬術大会2024）

6) 「Web相談会」、「BOKUJOB2024Webフェア」

新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限下において、利用が一般的になったWeb会議システムを使用したWeb相談会を、参加牧場・団体の協力を得て通年で実施しました。

2024年度は、11月9日～10日にWeb相談を集中的に行う「BOKUJOB2024Webフェア」を実施しました。

【2023年度】

- ・実施日 11月4日～5日
- ・相談参加者 30名（計137面談）
- ・参加団体 18牧場、3団体

【2024年度】

- ・実施日 11月9日～10日
- ・相談参加者 24名（計98面談）
- ・参加団体 11牧場、4団体

7) 競走馬生産・育成牧場就業応援サイト「BOKUJOB.com」等の運営等

コロナ禍の間、BOKUJOBでも多くの対面式の相談や参加型イベントの実施を見合わせ、その対応策としてWeb上でのBOKUJOB活動の広報や牧場就業希望者向けの情報提供にも注力してきましたが、2024年度も継続に努めました。

2024年度は、北海道の生産・育成牧場等で働く若者3人が仕事を通して成長していく姿に密着するとともに、彼らを感じた「馬の仕事の魅力や大変さ」や「見えてきた目標や夢」について語った映像コンテンツ『君を競走馬に～牧場で働く人々の夢～』を制作し、グリーンチャンネルでの放送やBOKUJOB YouTubeチャンネルでの配信を通して、牧場就業希望者への情報発信を実施しました。

また、BOKUJOBの広報活動の一環として、BOKUJOBプロモーションビデオを制作し、JRAターフビジョンでの放映やグリーンチャンネルでの放送を行うとともに、門別競馬場で協賛競走「BOKUJOB特別」を実施し、BOKUJOBの認知向上に努めました。

なお、「BOKUJOB.com」では、全国の生産・育成牧場の求人情報を掲載（103件・10月14日現在）していますが、掲載は無料となっておりますので、まだ求人情報の掲載を行っていない会員様におかれては、求人情報の掲載をご検討ください。ご利用をお待ちしております。

また、「BOKUJOB.com」では、牧場就業に興味を持つ若い世代を対象とした「BOKUJOBブログ」も開設しております。生産馬の誕生や馴致開始等の牧場での仕事に関することや牧場の日常等、掲載内容は問いません。こちらも、ぜひご利用ください。

軽種馬生産者等経営安定化（飼料等高騰対策事業）

当事業は、地方競馬全国協会（NAR）の競走馬生産振興事業補助事業として、令和5年度から実施されている事業です。（公社）競走馬育成協会は、昨年以降、当事業の実施主体としての承認を、NAR から受けております。

本事業は不安定な国際情勢や為替相場、さらには地球規模での異常気象などの影響を受けて、国内における競走馬の育成調教に必要な飼料、資材、敷料等の価格が高騰していることに対して、育成調教技術者の負担軽減の一助として、年度毎に給付金の交付による支援を行うものです。

令和6年度についても、申請のあった正会員の皆様に給付金を支給いたしました。なお、令和7年度の実施については未定であり、今後の詳細については、協会のホームページにてご確認ください。

お知らせ

一般財団法人 Thoroughbred Aftercare and Welfare (TAW) が設立されました

設立の背景

近年、国内外において動物愛護やアニマルウェルフェアへの関心が高まる中、競馬においても、引退した競走馬のセカンドキャリア等が注目されつつあります。このことについて、国内では競馬サークル全体で取り組むべきものとして、農林水産省、JRA、中央競馬の馬主、調教師、騎手、地方競馬（NAR、主催者の代表）、生産者で構成される「引退競走馬に関する検討委員会」が2017年に設置され、日本における引退競走馬に関する方向性や方針策定等を協議・検証する場として、その対応が進められてきました。

そうしたなか、一般財団法人 Thoroughbred Aftercare and Welfare（TAW：ティー・エー・ダブリュー）については、この検討委員会において、引退競走馬に関する専門的団体の必要性が示されたことを受けて、本年設立する運びとなりました。

TAW の業務

TAW では、我が国の引退競走馬対策の二本柱である、引退競走馬のセカンドキャリア促進（乗用馬への転用促進等）および（乗馬や繁殖等の役目を終えた馬の）養老・余生対策等に加えて、引退競走馬を始めとする馬の多様な利活用促進（馬のいる場所と扱える人づくり）を主な業務として取り組みます。

その一環として、宇都宮事業所では、既存の厩舎や調教施設等を活用し、セカンドキャリア促進に資する引退競走馬の一時預入（預託）施設の運営を行います。

今回設立された TAW は、このような課題への対策を安定的、継続的に実施するとともに、この分野において大きな役割を期待されていることを皆さまにご理解いただけると幸いです。



JRA からのお知らせ

「2024年4月からの薬物規制制度の運用」ならびに「禁止行為」について

JRAでは、2024年4月より新しい薬物規制制度の運用を正式に開始いたしましたのでお知らせします。これにより、2023年1月より周知期間を設けておりました追加した禁止薬物ならびに追加した規制薬物についても、競走後検体から検出された場合、罰則等の対象となります。また、規制薬物使用後に出走を控えるべき期間（出走制限期間）につきましても、追加した規制薬物において正式に運用が開始されております。

2022年4月より開始いたしました、競馬の公正確保ならびに馬の福祉及び事故防止の観点から、馬に対して行うことを制限する行為として、「禁止行為」を定めて運用を行っておりますので、あらためてご案内いたします。

2024年 JRA 馬事部

1. 2024年4月からの薬物規制制度の運用

① 禁止薬物・規制薬物の追加

競馬の公正確保の観点から、日本中央競馬会競馬施行規約の改正により、禁止薬物を351薬物、規制薬物を230薬物とし2024年4月に正式に運用が開始されました。

禁止薬物には、蛋白同化薬、ペプチドホルモン・成長因子、ベータ2作動薬、ホルモン調節薬・代謝調節薬、覚醒剤・興奮薬、強心薬、中枢神経刺激薬、血管拡張薬、麻薬、カンナビノイド、鎮静薬・催眠薬、ベータ遮断薬、抗精神病薬・抗うつ薬、全身麻酔薬、血圧降下薬に該当する351の薬物が規定されています。また、規制薬物には、抗炎症薬・解熱鎮痛薬、抗アレルギー薬、抗リウマチ薬、止血薬、骨吸収抑制薬、鎮咳薬、気管支拡張薬、抗緑内障薬・散瞳薬、消化管運動機能改善薬、利尿薬、抗不整脈薬、局所麻酔薬、貧血予防薬、高脂血症薬、骨格筋弛緩薬に該当する230の薬物が規定されています。

② 規制薬物の出走制限期間の設定

規制薬物において、薬物事案の未然防止の観点から、薬物施用後に出走を制限する期間（出走制限期間）が設定されております。とくに、出走を控えた馬に

対して治療に用いられる薬物について、調教師および開業獣医師等関係者に対して、出走制限期間一覧表を示し、期間内に実施される競走への出走又は出馬投票を制限しています。また、出走制限期間一覧表には、JRA施設内で使用されている規制薬物に加え、薬物動態に関する科学的知見に基づき、投与後長期間体内に存在する可能性のある規制薬物が含まれます。

牧場関係者におかれましては、エルテナク（出走制限期間：14日）、カルプロフェン（出走制限期間：15日）、ナプロキセン（出走制限期間：30日）、フィロコキシブ（出走制限期間：30日）、プロカイン（出走制限期間：15日）など、薬物の特性上、長期の出走制限期間が設定された薬物の施用時には、管理調教師に必要な連絡を行うなど、特に注意するようお願いいたします。なお、科学的知見が明らかになっていない等の理由から一覧表に含まれない薬物の中にも、長期間体内に残留する可能性のある薬物は存在しうることから、上記以外の薬物の施用時にも十分注意してください。

2. 禁止行為

薬物規制では取り締まれない「行為」、すなわち、馬に対し過度の苦痛を与えること、正常な成長に影響を与える可能性のあること、獣医療行為のうち調教や競走時の事故に繋がりがかねない行為などを「禁止行為」と規定しています。厩舎関係者は管理する競走馬に対して、以下の禁止行為を行ってはならないとしています。

(1) 公正確保の観点から本会施設の内外を問わず禁止（制限）する行為

- ・血液ドーピング
 - ※オゾンを使用した血液クレンジングを含む
- ・遺伝子ドーピング
- ・化学的、又は免疫学的去勢

(2) 馬の福祉の観点から本会施設の内外を問わず禁止する行為

- ・瀉血、乱刺（笹針）

- ・焼烙
- ・ブリストア
- ・成長途上である4歳未満の馬に対する骨吸収抑制剤（主な薬剤：ビスホスホネート製剤のテイルドレン）の投与

(3) 事故防止の観点から出走を制限する行為
[期間を定めて制限するもの]

- ・4歳以上の馬について、骨吸収抑制剤（主な薬剤：ビスホスホネート製剤のテイルドレン）投与後の出走（1カ月）
- ・オゾン療法（出走までの1カ月間を制限）
- ・糖質コルチコイド等を関節内投与した後の出走（10日間）

- ・下肢部にショックウェーブ療法を行った後の出走（7日間）
- [生涯禁止する行為]
- ・神経切断術

お問い合わせ先

日本中央競馬会（JRA）馬事部 アンチドーピング課
〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目1番1号
電話：050-3139-9537 FAX：050-3139-9719

お知らせ

BTC からのお知らせ

競走馬の育成・調教技術情報が満載

BTC NEWS



無料



♪
パソコン、スマホ、Webで
すぐに読めます！

https://www.b-t-c.or.jp/p300_03/

公益財団法人 軽種馬育成調教センター（BTC）

賛助会員のご紹介

2024年度、公益社団法人競走馬育成協会の賛助会員となっていただきました各社をご紹介します。

有限会社 アスコットコーポレーション

代表取締役 加藤誠
Tel.029-885-8199 Fax.029-885-6177
〒300-0427 茨城県稲敷郡美浦村布佐1870-8

“馬の健康を第一に考えるサラLG”

株式会社 テイクオー

代表取締役 萩原早苗
Tel.047-325-2000 Fax.047-325-2000
〒272-0033 千葉県市川市市川南2-4-12
市川ガーデンア512

株式会社 市原商店

代表取締役 今泉治武
Tel.077-558-0834 Fax.077-558-0885
〒520-3004 滋賀県栗東市上砥山2096

ベルテック 株式会社

代表取締役 竹下晋二
Tel.06-6991-9875 Fax.06-6991-9876
〒570-0044 大阪府守口市南寺方南通3-11-10

株式会社 三和メック

代表取締役 天野公夫
Tel.028-645-2741 Fax.028-645-2413
〒321-0105 栃木県宇都宮市横田新町18-6

北海飼料販売 株式会社

代表取締役 勢戸俊雄
Tel.077-554-2468 Fax.077-553-2001
〒520-3011 滋賀県栗東市下戸山127-1

株式会社 タイワ

代表取締役 長谷川和宏
Tel.0575-24-7111 Fax.0575-24-7110
〒501-3822 岐阜県関市市平賀811
E-mail horsseshoe@taiwa-co.com

株式会社 渡辺商店

代表取締役 渡邊義昌
Tel.03-3463-7661 Fax.03-3463-2715
〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-6-12

いくせい

2024 62号

発行日 2024年12月1日
発行 公益社団法人 競走馬育成協会
〒105-0004 東京都港区新橋4-5-4
日本中央競馬会新橋分館4階
TEL 03(6809)1821 FAX 03(6809)1822
E-mail : ikusei@arr.or.jp
URL : <https://www.arr.or.jp>

編集責任者 和田信也
制作・編集 西谷印刷株式会社

